

## メロプラザの基礎工事進む!!

メロプラザの建設工事は、着工から約7か月が経過し、現在建物の基礎部分にあたる杭工事を行っています。

本施設は、地震のときは避難所になることから、一般的な建物よりも高い耐震性が求められます。

このため、基礎構造には地震による揺れを竹のようにしなりながら受け止めることができる鋼管杭を採用しました。

この杭は、鉄製で先端部分に翼があることから「翼付き鋼管杭(つばさつきこうかんぐい)」と呼ばれます。

本工事では、杭径や長さの異なる大小119本の杭を使います。支持層まで一番深いところで約27メートルもありますので、一本8メートルから13メートルの杭を2本もしくは3本溶接して打ち込みます。

打ち込みの作業については、専用の大型重機により杭自体を回転させながら打ち込むため、騒音や振動が少なく、廃土もほとんど発生しません。

また、杭工事と平行してホールの可動席を地下に収納する「地下ピット」と呼ばれる部分の工事も始まり、地表部から約6メートルの深さまで掘り込む作業が進められています。



翼付き鋼管杭



長さの異なる杭を溶接して使用



杭工事用重機



地下ピット部分の工事